LINEで仕事を（第17回）

仕事依頼から確認まで全部LINEで済ませる事例

2020.09.16

通常、仕事のやり取りはメールですることが多いだろう。筆者は、フリーでライティングや編集の仕事をしている。最近は、ビリヤード雑誌の仕事も増えてきており、プロやアマチュアのプレーヤーにインタビューしたり寄稿してもらったりする機会もできた。

すると、対象は会社員ではないケースが多く、パソコンを使っていない人もいるのだ。そういう人とやり取りする場合はどうすればいいか。今回は「寄稿をお願いし、初校をお送りして著者校正してもらう」という流れの仕事を前提に、LINEですべてを済ませた経験をお伝えしよう。

まずは連絡先をゲットする

ビリヤード業界は狭いので、どこかでつながっている場合が多い。そのつながりを利用して先方に連絡先を交換してもよいか確認してもらい、連絡先を友だちから送ってもらうようにしている。

【Aさん】自分とのトークルームを開いてもらい、メニューから「連絡先」を選んでもう

【Aさん】「LINE友だちから選択」を選択し、連絡先を選んで送信してもらう

【自分】Aさんとのタイムラインに連絡先が届くので、それを開いて追加する

IDを取得している場合は、IDを何らかの手段で伝えれば、ID検索してもらって友だち追加してもらうことも可能だ。

友だち追加画面の検索でID検索してもらえば友だち追加してもらえる

一昔前は、電話できちんと企画意図などを説明するのが常識とされていたが、最近はメールやSNSなどのツールでお願いするほうが失礼に当たらない風潮がある。外回りが多い人や、曜日によってまたは時間帯によって仕事場が違う人などは、電話で意図しない時間に強制拘束されるよりも、コミュニケーションツールでの連絡のほうが自分の都合に合わせて読め、返信できるからだ。筆者がこれまでSNSでインタビューのお願いをした際、丸一日返事が来ないなど、レスポンスの遅い人は今のところ1人もいない。

LINEで寄稿のお願いをする

LINEがつながれば、テキストでのやり取りは何ら問題ない。依頼内容が長くなる場合は、読みやすい位置で改行したり1行空けたりして読みやすいレイアウトを心掛けよう。

依頼内容をテキストで（左）、大まかなラフを画像で送ってみた（右）

相手から原稿を受け取る… 続きを読む